



屋根より高いこいのぼり〜♪

こんにちは!
議会です
No.114

はさみ

平成23年5月号 《長崎県波佐見町議会》

3月定例会
平成23年度積極予算・議員定数削減 可決!! ... 2~3

行動する委員会 5

一般質問
12人が政策を問う 6~13

私もひとこと
地域のみなさんに感謝して 14

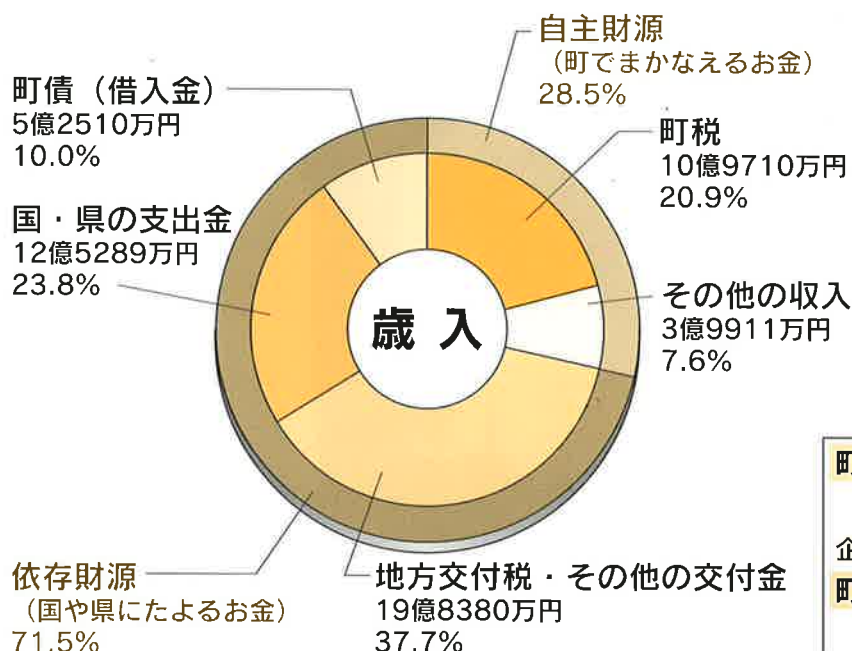
5800万円 (前年比8.5%増)

で出航!!~

3月 定例会

3月4日~18日

平成23年度一般会計および特別会計の予算・平成22年度一般会計および特別会計の補正予算・条例改正・町道路線の廃止・認定など、32議案が提案され慎重な審査の結果、原案通り可決しました。



主な歳入

町税 (町民税)

4億2610万円 (0.4%増)

企業進出により雇用拡大を加味。

町税 (固定資産税)

5億6450万円 (3.2%減)

土地価格の評価見直しのため。

町税 (軽自動車税)

3970万円 (5.6%増)

保有台数の増加傾向による。

諸収入

宝くじ基金配分

1189万円

ミニポートピア長崎波佐見環境整備協力金

2500万円

地方交付税

17億円を計上

平成22年度一般会計補正予算 (第5号)

歳入歳出に2945万円を減額し、
総額53億7500万円に!

平成22年度一般会計補正予算 (第6号)

歳入歳出に1100万円を追加し、
総額53億8600万円に!

議員定数の経緯

- 昭和35年 26人から22人へ
- 昭和59年 22人から20人へ
- 平成 4年 20人から18人へ
- 平成16年 18人から16人へ
- 現在 16人

議員定数 2人削減!!

議員定数を、現在の16人から14人に改め、次回「平成24年10月予定」の一般選挙から適用されます。

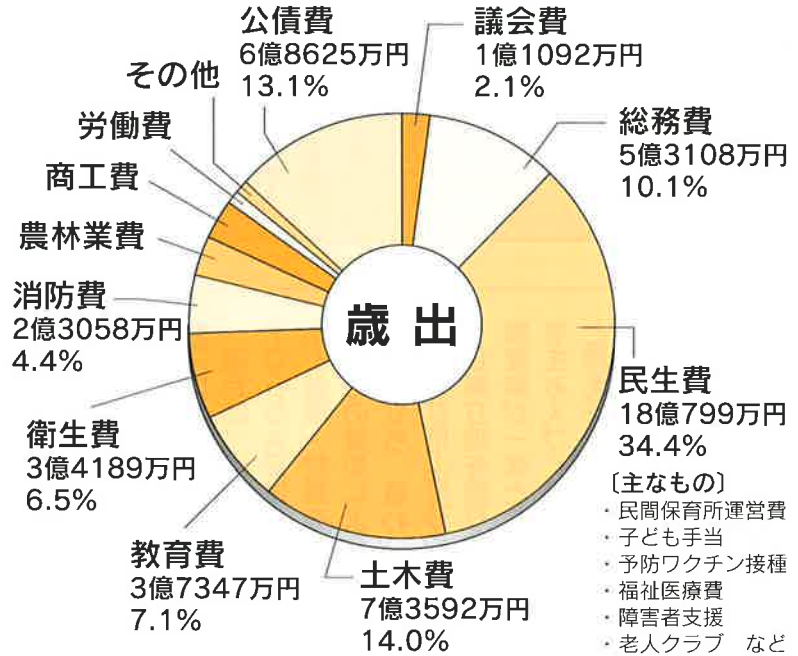
平成23年度

一般会計予算52億

～積極予算 “満載”

主な歳出

総務費	
コミュニティバス実証実験費	380万円
民生費	
老人ホーム「ひさご荘」建設費	9720万円
衛生費	
子宮頸がん、小児用肺炎球菌、ヒブの各予防ワクチン接種委託料	2498万円
土木費	
鹿山団地造成・建替費	1億3700万円
雇用関連対策費	
緊急ふるさと雇用対策費など	9495万円



一般会計		52億5800万円
特別会計	国民健康保険事業	18億790万円
	後期高齢者医療	1億2278万円
	介護保険事業	9億3957万円
	公共下水道事業	4億9264万円
	町営工業団地整備事業	2億6966万円
合計	88億9055万円	

企業会計（上水道事業）		
収益的	収入	2億7523万円
	支出	2億4269万円
資本的	収入	3450万円
	支出	1億6863万円
（不足金は過年度損益勘定留保資金を補てん）		
特別会計は合わせて36億3255万円（10.2%増）		

主な賛否表

○賛成 ●反対

議案番号	議決の結果	表決数 賛成:反対	議席番号														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
議案第2号 平成23年度一般会計予算	原案可決	15:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議案第3～8号 平成23年度特別会計予算および上水道事業会計6件	原案可決	15:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議案第19～25号 波佐見線道路認定（3線）および道路線廃止（4線）	原案可決	15:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議案第16号 一般職の職員の給与に関する条例の一部改正	原案可決	15:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議案第17・18号 波佐見町水道条例の一部改正	原案可決	15:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議案第27・28号 町長および副町長・教育長の給料に関する条例の一部改正	原案可決	15:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議案第15号 特別職の職員（非常勤）の報酬および費用弁償に関する条例の一部改正	原案可決	15:0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
発議第1号 「平成23年度波佐見町一般会計予算」に対する付帯決議	原案可決	11:4	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
発議第2号 波佐見町議会議員の定数を定める条例の一部改正	原案可決	14:1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

「平成23年度波佐見町

一般会計予算」に

対する付帯決議

本町の財政は、積極的に改革を実施し一定の成果は得られた。本年度当初予算は、雇用対策、地場産業の活性化などに取り組みとされている。その執行にあたっては十分留意して取り組まれるよう要望する。

1. ふるさと雇用の最終年度となる雇用対策費が大幅に増額された。長崎県の制度改正を十分に活用し、実績を上げるよう指導され、また、次年度へ向け契約期間終了後も雇用を継続するよう適切な指導を行うこと。

2. 自主財源に努めるため、定住人口を増やす対策が求められる。あらゆる施策の中で福祉の向上と町の活性化に努め、税収増を図り定住に繋がる施策を行うこと。

以上決議する。

平成23年3月18日

波佐見町議会

反対討論

古川 千秋

ふるさと雇用事業は、町担当職員や各事業主体も、事業制度や補助金交付要綱などの内容を十分理解され取り組まれている。

定住促進については、既に行政側も町内関係団体や進出企業等とも協議と、転入斡旋活動にも取り組まれ、また、具体的な支援策も検討されている。

町土の均衡ある発展を目指す観点からも、議会側でも「本町に相応しい良い政策は何か」を十分な調査研究し、議論を深めることが先決であると考え反対する。

賛成討論

武村 龍宏

議会は、まちづくりにとりていう17000人定住人口を図る施策のもと政策・討論を行っている。定住人口の増加によつて生活の消費が成り立ち、賑わいを図るなどで地域力が向上されると思う。

企業立地を図り農業・窯業・建設産業が一体となることで、雇用を生み人づくりの方向性が決まると考える。

そのためには、定住人口促進の制度研究など推進すべきと考え、決議に思いを同じくするもの一人として賛成する。

反対討論

福田 洋吉

当初予算は、本町の一年間の進むべき根幹を示すものである。

予算委員会の中で真剣に審議し、反対意見・討論もなく可決された。にも関わらず、今に至つて附帯決議が提出されるのは、予算委員会を冒瀆するものと考ええる。

現下の厳しい経済状況を踏まえ、予算が適正に執行されることを強く求めることは、議会の当然の義務であり執行部としても当然の責務である。

よつて本決議には反対する。

賛成討論

松林 一夫

わが町も非常に厳しい中、今、元気な町・活性化に富む町を目指していくことが、重要な課題であると考える。

今回の決議は、特に雇用対策・定住人口の拡大・積極的な事業の促進・将来に対するビジョンなど、目標課題を前面に押し出しているため、賛成する。

反対討論

大久保 進

予算審議の内容については十分に論議され、委員長からの報告のとおり予算委員会のなかで、強く審議が尽くされたと説明があった。

全国的に、国・県とも雇用対策については十分な配慮が図られ、本町も厳しい財政の中、予算が組まれている。

雇用対策に対しても十分に配慮されているということで、反対の討論とする。

賛成討論

藤川 法男

本予算の決議の手続き上、理解に苦しむところもあるが、さまざま必要な考えたとき、湯無田地区、小学校校区児童の減少という事態の中で、今後、定住人口策を真剣に考えていかないと、本町の人口バランスは崩れると思われる。

一番大事な教育問題に関しての均衡を図るため賛成する。

行動する委員会

所管事務調査報告

総務文教委員会

教育行政については、先に調査を行った小中学校の中で、再調査が必要な永尾分校の今後に関する調査を行うため、教育委員会から現状とこれまでの経緯の説明を受け、協議を行った。

●現状について

平成22年度は8名の児童で複式学級を行っている。1・2年生を含む学年については8名以下になった場合は1学級（複式）とする条例がある。

平成23年度からは単式学級に戻り、25年度まで続く予定で、26年度あたりから複式に戻ると予測される。

●今後は

波佐見町内全ての小学校を対象とした「通学区域検討委員会」設置に向け準備委員会を立ち上げ、1年間で検討に入るための準備委員会を進め、検討委員会のメンバーが決定される。

通学区域については、長崎キヤノン前から村木までの県道工事の工事完成が、平成25年度を目処に進められているので、大体、それに合わせ審議され、教育委員会に答申される。

教育全般については、今後十分に検討を重ねながら子どもたちにとってより良い環境作り、より良い教育ということを軸に協議を重ねていくことが重要である。

（1・2月2回開催）

産業厚生委員会

町の開発振興「町道の整備と万年橋工事の進捗状況・県道移管」について、現地調査などを実施し、所管課と協議を行った。

●町道整備について

町道改良においては、事業遅延箇所も見られるため、地権者、隣接者などの理解を得られるよう事前に調査を十分行い、適任者などに仲介の労を依頼するなどの努力が必要である。

●万年橋工事の進捗状況について

用地取得の関係から、再三にわたる町と県との協議の中で、昨年11月計画路線の一部見直しを行い、23年度から具体的な事業が進められることとなった。

●県道移管について

新たな県道の整備で、二重管理ができないため、県道4号線（川棚有田線）の「一岳辺田郷梅野高野く川内郷高尾自動車までの区間1917mと宿郷風ノ木く折敷瀬郷横枕橋までの区間1599m（旧道区間）」が23年度町へ移管される予定。

今後、移管にあたっては、町と県が十分な協議を行い、協定書が交わされることとなっている。協定内容については、町の要望が受け入れられるよう調査研究し、関係地域の理解も得られるよう行政側に要望を行った。

（1・2月2回開催）

議員定数調査特別委員会

本委員会は、現下の厳しい社会経済情勢などの状況を鑑み、行財政改革のさらなる推進を図るとともに、地方分権の進展と権限委譲の拡大に伴い、議会の果たす役割と責任は、今後ますます重要になる。これを踏まえ、平成21年8月第5回臨時議会において設置され、23年3月まで計18回の調査研究を開催し協議を行った。

町内22地区、自治会役員の方にご協力を頂き、「アンケート調査」や「町民皆さんとの懇談会」を開催するなど、各議員が協力して積極的な調査活動を展開してきた。

本町の議員定数は、昭和35年に26人から22人に削減され、平成16年までに現在の16人としている。

委員会は所管事務に対し、専門的な調査や議会から審査を任された請願などを審査する重要な構成機関であり、討論や議論するに適切な相応の人数の確保が望ましく、各委員会が円滑に運営されるような配慮も必要であると考える。

また、全国規模から見た議員数と町内議員数の比較、全国市町村議会の組織・構成・議員に関する調査なども考慮し、大幅な削減は避けるべきとの意見も出され、民意を代表するに足るだけの議員定数は、確保されなければならない。

このようなことから、適正数は「14人」とする意見が多数を占め、本委員会は総合的観点を踏まえ、14人に削減する結論に至った。

よって、平成23年3月第1回議会において、本委員会の最終報告を行った。

質問一般

施策を問う!



武村龍宏議員

● 万年橋架替工事負担は15%、他の県道負担金はどうか

問 安心・安全な生活環境、農地、住宅地などの土地利用基盤整備のことなどに土地利用波佐見計画が急がれると考えるがどうか。

町長 計画見直し作業を行ってきたが策定までに至っていない。今後の土地利用については、平成25年度からの第5次基本構想策定と併せ研究していきたい。

問 平成23年度完成予定の町の平面図電子図化をどう利用するか。

商工企画課長 22年度でほぼ整備が完了。23年度にパソコンでの処理ができるよう進めている。完全な電子図化ができていないので整備に努める。

問 土地・建物など未利用財産の効果的活用については町有財産の貸付、および処分の可能なものをどう検討したか。

町長 西ノ原駐車場など年間240万円程度

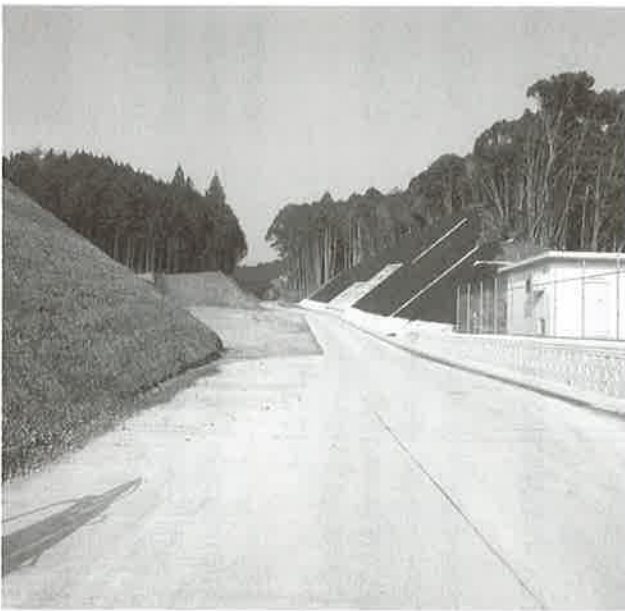
貸付収入がある。売却は隣接者の同意が得られれば売却している。また、未利用地については積極的に貸付けや売却などを考えている。

問 町施設使用料・手数料の減免割合について、適正化をどう進めるか。

町長 平成12年に全面見直しした。19年4月に南小体育館、体育センター使用料の改正を行った。23年度に全施設の料金見直しを計画し、使用料および手数料の適正化を図っている。

問 町は万年橋架替事業費に15%負担するが県道改良工事などの負担はどうか。

町長 一般県道、村木工区、飛瀬から村木間改良工事、小樽郷稗ノ尾地区拡幅事業、東小学校付近歩道整備には負担金はない。



整備される長崎キヤノン前から村木間

● 町民の安心・安全を守る政策は?



松尾道代議員

問 景気・雇用の低迷が続く、町民の生活はますます厳しくなっている。取り巻く環境も年々悪化し、何らかの生活支援が必要の方が多くなっていると予想されるが。

町長 影響は大きく、病院の受診や日常生活に影響していると思う。安心して暮らせる支援体制をつくっていかなくてはならないと思う。

問 子育て支援センターの早期開設を何度も質問し、昨年6月「開設場所の検討を行っている」と答弁されたが。

住民福祉課長 候補地があり調査したが、車の往来が多く危険で足踏み状態である。早めに施設を探すが大事と思っている。

問 町の奨学金は高校生月1万円、大学生で2万円。貸与額が少なく他を利用され、機能していないと思うがどうか。

奨学金や支度金が不足する人に乗せて貸

● 住民福祉の 安心・安全を



松田宇子議員

問 幼稚園と保育園を一体化した施設が創設された場合、利用者の負担や受けるサービスに影響はないか。

町長 国からの詳細な制度や負担割合、サービスなどの提示がない。

今は未定。

問 勤労福祉会館や庁舎内は、高齢者・障害者に配慮したバリアフリーをさらに進め、改良すべきと考えるが。

町長 勤労福祉会館はエレベーター設置に向け、財源確保など検討してきた。

平成22年度の産炭地域助成金の申請が不採択となり、引き続き補助事業などの支援策を検討したい。

役場庁舎は建物の構造上設置は難しいと考える。

可能な限り1階で要件が済むよう配慮していく。

問 1階での対応は健常者と比べ平等性・公平性に欠けないか。

要件の受付や議会の傍聴はどこか。

町長 確定申告なども含め、対応の利便性を検討・研究していきたい。

傍聴は1階会議室のテレビ放映で見ることもできる。

ができる。

問 2階の女性用トイレは和式のみで不自由との声もある。

総務課長 洋式トイレの設置場所も含め検討したい。

問 チャイルドシートは、子どもの発育に際し整備が必要とされる。購入費の一部を助成する考えはないか。

町長 子ども手当の趣旨は健やかな育ち支援であり、助成と重複すると思っている。助成

の考えは今はない。

問 ABC検診は、胃がん根絶や医療費削減に期待が持たれる中で、採用する自治体や企業もある。

本町の取り組みはどうか。

町長 今後の評価の動向を見た上で、導入の検討をするべきか考える。

現在では、今までどおりX線検査による胃がん検診を、実施していく。

ABC検診による分類

	A	B	C	D
ピロリ菌	陰性	陽性	陽性	陰性
ペプシノゲン値	陰性	陰性	陽性	陽性
リスク	低	—————→		高
40歳以上での割合(2006年高崎市)	49%	27%	20%	4%
年当たりの胃がん発生頻度	ほぼゼロ	1000人に1人	400人に1人	80人に1人
内視鏡検査	不要	3年に1度	2年に1度	毎年

ABC検診

胃がんの原因とされるピロリ菌感染と胃の粘膜の委縮を血液で調べ発生リスクをA~Dの4群に分類し判定する。リスクに応じて、胃がんを見つけるための内視鏡検査を受ける。



笑顔は町の宝物

与できるよう町の制度の改正ができないか。

町長 質問の通告が漠然として戸惑わせるような形と受け止める。

しかし、前向きに検討しながらそれぞれの所管でやっつけていきたい。

問 社会の変化、あるいは心の変化にうまく対応できずに、学校に行けなくなった児童生徒が全国で12万人以上と報道されている。町内でも図書館を利用

用し、けなげに勉強している生徒もおり、「別室登校」と認めた対応で大いに評価している。

図書館の開館が10時、早めることはできないか。休館日や給食の対応はどうか。

教育長 職員の雇用体制、勤務体制がある。

しかし、生徒に別の部屋を用意するなどの対応策はあると思うが、給食は、保護者の責任と思う。



中村與弘議員

● 観光の誘客を図れ ● 語りべの育成が必要

問 先に発表された「九州経済白書」によると、主要産業に「国際観光」を大きく取り上げられている。併せて「インターネット戦略の必要性」もある。九州を訪れる外国人

の定番観光ルートと語られている。「ハウステンボス」の活用も期待されている。中でも周辺地の観光名所づくり・顔づくりがなされなければならない。

特に本町では、西ノ原地区のセラミックロードによる波佐見焼の顔づくりで、ハウステンボスに訪れる際に立ち寄る「特産館」的な場所として、観光客の買物コースの定番に入れられるよう努力すべきと思うが。

町長 本町においてもハウステンボス周遊観光協議会へ加盟し、連携による交流人口の拡大策を検討している。

また、町づくりアクションプランを策定中で、体験・滞在型プログラムメニュー化、情報発信の強化、受入基盤の強化などに取り組んでいる。

ご提案の西ノ原地区には観光の顔である「陶芸の館」や、やきもの



大久保進議員

● 農産品加工センター誘致は ● 事務事業の簡素化見直しの考えは

問 農産物に付加価値をつけるため、加工する企業を誘致しブランド化を進める考えは。

品づくりなどの仕掛けを連携してもらい、その上で促進に向け関係者支援や助成措置の対応を検討していきたい。

問 農・窯と連携で市場産業を支えてきたが、今は変換も余儀なくされ兼業化も厳しい。

農業の活性化を図るべきであり、本町でも米粉を使ったロールケーキ・たこ焼の原料・パン粉・玉ねぎの菓子・人参ジュースなど進められている。機械などには多額の費用が掛かる。支援の方法は。

農林課長 加工販売の支援としては1/2、1/3で、上限2500万円と5000万円などの制度がある。

条件整備については、農林課などが対処し、業者については支援・指導・助言をしていきたい。

問 行政サービスの窓口一本化の考えはないか。

町長 現在の対応で支障はないが、状況を見ながら検討・研究する。

問 事務事業の簡素化を図るため、東彼三町で共同化できるもの。

また、電算の統一化を進めるように努力すべきではないか。

町長 三町での電算の共同システム研究、入札制度研修、あるいは福祉関係など、担当者レベルで情報交換を続けている。交流を図りながら事務の効率化と削減を図っていく。川棚町がどうされるかであるが、(株)RKKコン

ピューターサービスと連携している市町村が一緒になり、協議会で効率化に向け進めている。

商工企画課長 九州で電算をRKKに委託している自治体は約92団体ある。

今後は自治体クラウド化として、ソフトを共有化して経費の削減を図りながら進めていく。

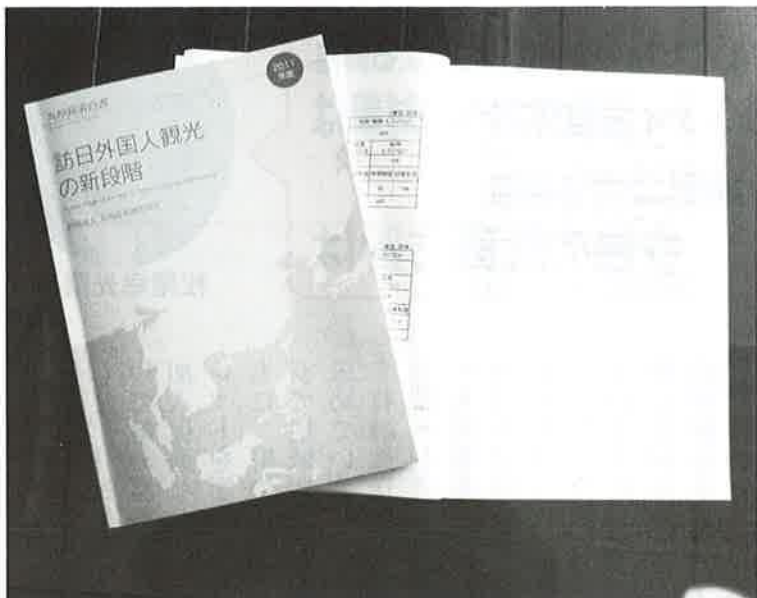
※クラウド化
戸籍や税情報などを扱う総合行政システムについて、ネットワークを使ってシステムを利用し、保守管理を企業に委託する。これにより各自治体は、最低限の接続環境を有するのみとなり、保守管理費などの経費の軽減が見込まれる。



波佐見産の米粉



波佐見ブランド産品



九州経済白書より

公園、世界の窯広場など公共施設がある。
また、民間による観光スポットとしての西ノ原にある工房など誘客に努めている。ギャラリーが好評で、リピーターも定着している。

当地区は、第四次基本構想の中でも都市基盤の整備として土地区画整理事業による町づくりが進められているが、完成までには多少の年限が必要である。
問 戦時中、永尾山に落ちた戦闘機の後処理などの「語りべ」の育成など必要と思うが。
【教育長】 このような歴史的な証言を後世に伝えるため生身である語りべの存在は非常に重要である。



福田洋吉議員

- 万年橋工区整備 (架け替え) 完了はいつか？
また、未整備区間の改良は？
- 工業用水管の配管と町道第2西線改良事業は調整をしながら同時進行をするべき

問 一般県道平瀬佐世保線について、万年橋工区の整備完了後、町への移管受け入れに同意する旨回答されているが、整備完了予定はいつになるのか。
また、町が移管を受

けた場合、未整備の薬局前から第8分団消防詰所間の整備計画を決定し、地元関係者と協議をされ、最善の策を図るべきではないか。
【町長】 万年橋架け替えは本町の最優先課題と位置づけ、計画変更も含め、橋梁の詳細設計が行われている。
予算の関係もあるが、平成24年度の完成を目指し事業推進を進められている。未整備区間の計画は、南部線改良との関連もあり、進捗状況を見ながら関係者や自治会に説明していきたい。
問 工業用水は商工企画課の所管となっている。水道事業に対する全てのノウハウを持つ水道課へ所管を変更するべきである。
現在、折敷瀬郷内ノ波で工業用水の試掘が行われ、町道第2西線の改良事業も行われている。調整をして同時進行をさせるべきであ

る。改良事業を先行すると、舗装された道路を掘り返すなど、二重作業になりかねず多額の税金の無駄使いではないか。
【町長】 現在、工水においては担当課の商工企画で行っているが、良質水が確保できた場合、工業用水事業を立上げ、水道課へ移管の予定である。工水については試掘であり、配管は考

えていない。
【商工企画課長】 試掘であり、配管路線および経費の積算はしていない。
【副町長】 さく井工事が年度内あるいは繰越をしたとしても、4月早々に結果が出ると思う。
それを待ち、必要であれば舗装工事の先延ばしもやるべきと思う。



配管施設はどうか



松尾幸光議員

- 個人情報・プライバシー保護法による弊害
コミュニティ活動体制への対策は
- 小学校設置における課題
今後の計画方針は

問 個人情報保護法およびプライバシー保護法が、コミュニティ活動体制に弊害を生じる傾向にある。
本町においても、今後の自治会活動への影響が懸念されつつある

が、対策を問う。

町長 町の取り組みとして、住民福祉課の窓口で町の概要と自治会加入促進などのパンフレットを配布するとともに、町のホームページで地域活動の理解を求めている。

有線放送屋内設備費の助成制度を賃貸住宅へも対象を広げ、建築確認申請時においても周知を図っている。

また、今後もオーナーの方々との意見を交換しながら地域活動への理解を求めていく。

問 自治会活動の「ガイドブック」などを作成し、リーダー育成の向上を図るべきと考えるがどうか。

町長 現在、県の方でも自治会活動に対する支援策を模索している。今後、県との連携を図りながら検討していく。

総務課長 自治会運営に役員さんが苦勞されている。自治会の力を

アップする上でガイドブックを作るといふことは大変重要。早速検討したい。

問 少子化が急速に迫っている中、本町における小学校設置において学校ごとの児童数のアンバランスが生じている。校区変更などの課題をどのような計画・方針で進めようかとされているのか。

教育長 この問題を真摯に受けとめ、広く意見を聞きながら検討を



重ねる時期が来ていると判断する。

平成23年度から波佐見町内小学校通学区区域検討委員会を設置して、現在の通学区域の在り方などについて諮問を行うこととしている。

この検討委員会は、あくまで子どもたちにとって最良の環境づくりは何かを念頭に置き、行政が一方的に変更ありきから進めるものではない。

本年度の新一年生学校別児童数

東小学校	24名 (内、永尾分校7名)
中央小学校	67名
南小学校	48名

今年の東小学校入学式風景

- 町内事業所で
職員研修を……



今井泰照議員

問 文部科学省は、保護者や住民が公立小中学校などの運営に直接参加するコミュニティースクール（地域運営校）を今後の3年間で現在の5倍の3000

校に増やす目標を掲げた。

本町も今回の指定に前向きに取り組む考えはないか。

教育長 この制度は、本町が推進している、開かれた学校づくりを行う上で有意義であると思う。

現在、これに類似する学校評議員制度や学校支援会議など、既存の制度を活発に取り組み、学校運営の充実を図る。

導入については、今後の課題とする。

問 今回、各小中学校の図書室に空調設備が設置される。

有意義に活用するため、夏休みに図書室の開放はできないか。

教育長 夏休みの解放は実施できると考える。図書司書補助員なども適切に配置し、解放の実現化につなげるよう検討していく。

- 公設民営はどう考えるか？
- 公共事業の説明は十分か？



藤川法男議員

問 本町の民間所得は必ずしも高くない。全国成功例を検証し、起業家などの支援を検討すべきである。

町長 起業分野が多様で小規模町での対応は大変厳しい。

新事業化支援アドバースからの補助金、ファンドなどの金融支援まで、担当課でも起業に応じた紹介ができ、活用してもらいたい。

問 起業は個人と団体とある。公が整備し民が経営する公設民営は、今後考えがあるのか。

町長 その形が十分機能できる職種、事業があれば検討する必要があるが、今の段階では不十分である。

提案をいただければそれが公設民営にふさわしく、本当に他の企業と整合性があるのかを十分検討して、行政として責任をもって進める。

問 インフラ整備などの公共事業に対し、町民の皆様が理解が得られていない事もある。説明に不備はないのか。

町長 全体説明会などでご協力をお願いしているが、いろいろな事情から地権者の協力をいただけない場合もある。

理解を得るために再度説明し事業の推進を図っている。

問 秋の「炎まつり」を福岡県や、熊本県など経済的に豊かな都市部に活路を見出し、「春の陶器まつり」「秋の食まつり」として集客できないか。

町長 秋の食まつりは主催者である「炎まつり実行委員会」に提案するが、郷土料理・ご当地グルメ・ご当地土産品など本町を象徴する食が必要だ。

平成23年度に取り組む事業の推移を見極めまつりに生かせるか研究したいと思う。



このような整備が望まれます

職員の研修について

問 本町職員に民間の厳しさ、痛みを理解してもらうため、町内の事業所での体験研修ができないか。

町長 さまざまな研修の中で、最新の情報や技術を積極的に学び、真の実力のある職員の育成、能力開発を図ってきた。

町内事業所などでの研修については、地場産業である窯業、農業

関係について、直ちに研修するということは、町民の方々との交流を深めていく上で大切なことであり、職員の質の向上や、勤務意欲にもつながるものと考え

る。

事業所研修を実施する場合、研修期間の問題や実施時期、あるいは対象事業所の問題などさまざまな課題について、今後、十分検討したい。



図書室を利用する子どもたち（東小）



松林一夫議員

- 定住人口増を進める施策は！
- 投資的事業に力を入れるべきでは！

問 今後の町の活性化のため、定住人口（持ち家など）の増を目指すべきと思うかどうか。

町長 町営工業団地の整備や空工場への誘致活動も含め、キヤノン関連企業や新規企業の

誘致を図り、雇用と定住人口の拡大を図りたい。

また、定住化の促進について、福祉面・子育て支援など含めて、今年度研究するようにしている。

永住につながる転入者の戸建て住宅建設補助金などについては、町内企業の従業員の結婚などによる定住を含め、今後とも研究していきたい。

問 土地を購入して新築される方々に、地産地消に繋がる地元に着した産物（陶磁器・米など）、さらにハサミックカードの利用促進できないか。

また、町内林を利用したり、町内建築業者を利用する場合、支援制度を設けるなどして、持ち家定住増の政策を図れないか。

副町長 そういったものを含めて、あらゆる角度から検討をしたい。転入される方々のため



尾上和孝議員

- 鴻ノ巣公園周辺の整備計画はあるのか
- 建設業界活性化のためリフォーム補助はできないか

問 鴻ノ巣公園周辺の整備計画はあるのか。

町長 多目的機能を有した施設の整備拡充も必要とは考えられるが、町の財政状況などを考慮した場合、非常に厳しい。

問 キャンプ場など含む総合型自然公園整備はできないか。

町長 キャンプは、自然の大切さや、自分の役割・責任・新たな仲間作りなど、体験することで、今後の子どもたちの成長過程において大きな財産の一つとなるとは考える。

しかし、財政状況などに加え、設置場所や設備の内容、管理など、まだ今後の検討課題も多く、現段階では非常に厳しい。

鴻ノ巣公園は、可能な限り排水整備を優先しなければと考えている。

キャンプ場として、本当にふさわしい適地があれば、将来において検討してもよいのではと思う。

問 長崎市・佐世保市などでは、緊急経済対策の一環として建設業界の活性化、既存住宅の長寿命化などに取り組まれている。

隣県自治体で取り組まれている「リフォーム補助制度」はできないか。

町長 工事を町内業者に限定することにより、地域経済の活性化に繋がると予想されるが、財源の問題や新築住宅の関連もあり、制度導入は考えていない。

建設課長 都市公園（鴻ノ巣公園・やきもの公園）は原則火気厳禁としている。

商工企画課長 ニッ岳公園・神六山公園も火気厳禁である。

問 どこか1ヶ所でも、バーベキューができる場所がつかれないか。

町長 地区のグラウンドをお願いすれば、火気の使用はいいのではと思う。



町内業者を活性化させる「リフォーム補助金制度」を！



町の活性化に向けて整備される町道西前寺線

になるような施策を考え、定住化について支援策を研究していきたい。

問 将来を見通した町道・県道の整備など、投資的事業を強く進めるべきと思うがどうか。

町長 3ヶ年の実施計画、5ヶ年の基本計画

の中で、将来を見据えた長期の道路整備計画はある。当然、10年先の改修や整備も必要だが、それと同時に町の財政計画も重要になってくる。

また、国・県の政策の方向性に合わせる方が有利と思う。

● 波佐見町の農業改革は？



古川千秋議員

問 各集落営農組織の法人化の見通しはどうか。

町長 各組織とも平成23年3月となっているが、猶予は認められている。今後、各方面の視察や簿記研修などを

重ねたり、大型機械の導入と全面的な支援のもと法人化を図る。また、可能なところから法人化に向けて、関係機関一体で推進する。

問 担い手、集落営農組織、営農集団などへの農地の集約化状況と、今後のあつせん、育成計画はあるのか。

町長 集約化は、ここ2年で10件3・64畝、農地あつせんは8件2・49畝である。今後、高齢化や離農などによって農地の流動化が進むと考えられるので、関係団体と連携し、農業経営や栽培技術の全般にわたる指導など、できる限りの支援、協力に努めたい。

問 新規作物のカボチャ・馬鈴薯の作付け拡大と定着化は。

町長 作付けも伸びているので、JAや県、農業振興会など関係団体と連携し、新規作物の導入・定着と普及拡大を引き続き図ってい

く。

問 農産物などの地産地消計画はあるか。

町長 農家レストランや学校給食での活用、町内農産物直売所での販売などと併せ、6次化・地産地消法などの取り組みに沿って、農産物が供給できる体制づくりと販売促進につなげたい。

問 動力式揚水施設に係る農業用水の確保はできるのか。

町長 水管理を徹底し、保水・利水に努め、適



集水箇所付近の堆積土砂 (陣川ポンプ場)

正な水保全と有効活用を図る。

建設課長 河川の堆積土砂については、実情を県に話し、除去対応できるようなことでも進めたい。

水道課長 下水道処理水の有効活用は、水利組合からも陳情など受けているが、まずは下水道の普及拡大を一定の段階まで進め、並行して処理水の有効活用を費用対効果も含め、研究していく方針である。

私もひとこと

地域のみなさんに 感謝して



野々川郷
大本 広子

前日の夜は、普段と何ら変わることもなく、数日前に迎えた25回目の結婚の記念に「陶器市も終わったし、旅行にでも行こうか！」と話し、床に就いた主人でした。

しかし、翌朝には、旅行の夢も叶うこともなく、突然帰らぬ人となってしまいました。その日から何をどうして過ごしてきたのか、記憶も定かではなく、ただただ地域の皆様にもかもお世話して頂いたことに感謝の日々を過ごしております。

ご近所の仲間も、私たち家族の事を心配してほとんど毎

日のように顔を出してくれ、時には主人との思い出話に涙する日々をともに過ごしてくれました。どんなにか心の支えになったことか……。

口数の少ない主人でしたが、何もかも頼りきっていた私は、喪失感におそわれる日々を過ごしました。

しかし、私以上にショックを受けていたのは二人の娘だったに違いありませんでした。娘達は私の事を気遣ってくれ、気丈に振る舞ってくれました。その娘が居てくれた事で、頑張る事ができました。

「本当にありがとうね」

あの日から六年、おかげさまで娘二人も、私も力強く仕事に打ち込む日々を過ごしております。

これからも、生前お世話になった地域の方に、残された私たちが少しでもお役に立つことがあれば、お手伝いさせていただきます。と思っています。

平成22年11月4日から12月2日まで、22自治会を対象に町内21カ所で開催しました「町議と語ろう」「町民皆さんとの懇談会」で出された323件の意見書を、11項目に分析した結果は左記のとおりです。各自治会の皆様のご協力ありがとうございました。さらに、町民に開かれた議会を目指し、議会活動に努めます。

分析表

項目	意見数	割合 (%)
①議会に関する全般的意見	62	19.2
②議員定数に関する意見	18	5.6
③行政全般に関する意見	84	26.0
④自治会の問題に関する意見	14	4.3
⑤自治会の合併に関する意見	11	3.4
⑥教育・校区問題に関する意見	9	2.8
⑦コミュニティバス（福祉）に関する意見	9	2.8
⑧公共事業の道路・河川等に関する意見	79	24.5
⑨西ノ原土地区画整備事業に関する意見	14	4.3
⑩農林業問題に関する意見	20	6.2
⑪その他	3	0.9
合計	323	100

次回の定例会は 6月中旬 からの予定です

樹齢百有余年といわれる「田ノ頭の枝垂桜」、今年も淡いピンクの花をいっぱい咲かせ、町内外の多くの人々の目を楽しませてくれました。

町の平成23年度各予算も決定し、住み良い町づくりの実現を目指しスタートしました。その中で、多くの町民の方々が望まれている「コミュニティバス」の試験運行が、今秋季にも実施されることとなりました。

運行にあたっては、より多くの方の利用が期待されることとあります。

また、春の選抜甲子園で感動を与えてくれた波佐見高校野球部、夏の大会への出場が期待されます。

編集後記

議長 松添 一道
 議会広報調査特別委員会 委員長 松田 宇子
 副委員長 川田 保則
 委員 藤川 川上 千和 秋孝
 藤川 川上 千和 秋孝